

# 朝来市における農福連携の広がり と 所得向上の取組

障害者支援施設 和生園 (朝来市)



## 経緯

- ・令和2年、朝来市の担当者が、市内の障害者支援施設「和生園」から新たな事業に取り組みたいとの相談を受ける。
- ・以前から農福連携の推進を考えていた担当者は、市内でピーマンを栽培している農家をターゲットに絞り込み、作業内容等について農家と和生園が話し合う場を設定。
- ・その結果、農家はピーマンの収穫作業を和生園に委託してみようということになり、マッチングが成立。
- ・作業を始めた当初は、収穫期前のピーマンを摘んでしまうことがあったが、収穫用ハサミに収穫適期のピーマンの長さの目印を付すことで、収穫適期のピーマンを判別できるようになり解決。

## 取組内容

- ・ピーマンの収穫作業は指導員1名と作業員4名の体制を組んで対応。
- ・収穫作業を終えた作業員が、日焼けし生き生きとした表情で施設に帰ってくることから、他の施設利用者からも作業に従事したいとの声が聞かれるようになった。
- ・ピーマンの収穫作業が夏場の3か月程度であるため、11月から12月にかけて行われる黒大豆収穫作業の一部（葉取り作業）を追加。

## 今後の展望等

- ・別の農家から田植え後の育苗箱を洗う作業や、朝来市特産の岩津ねぎの除草作業について、直接和生園にオーダーが入るなど連携の広がりを見せている。
- ・さらに、本年からは農地を購入し小菊の栽培を始めた。4月中旬に約5千株を定植し需要期のお盆前のお盆前出荷を目指す。生花は生花卸売市場が全量引き取って競りに出される予定。
- ・定員を増やし、周年作業ができる様、ビニールハウスの整備なども検討しつつ、障害者の所得向上を図っていく。

2022年7月5日調査